

JAPAN PLATFORM

SUMMARY REPORT : HAITI EARTHQUAKE RELIEF PROGRAM

(January ~ December 2010)

ジャパン・プラットフォーム

ハイチ地震被災者支援報告書 (2010年1月～12月)

JANUARY 2011



目次

| | |
|-------------------------------|----|
| 目次／団体名称一覧 | 2 |
| 謝辞／支援概要 | 3 |
| ハイチ地震 支援の流れ | 4 |
| 実施事業紹介 | 6 |
| 支援の活用事例 | 8 |
| 支援の活用事例／コラム：ハイチの素顔 | 9 |
| 評価と提言 | 10 |
| 事業一覧と収支報告 | 11 |
| 市民社会との連携 | 12 |
| ハイチ地震 支援者一覧 | 13 |
| 支援企業・団体からのメッセージ | 16 |
| LOVE FOR HAITI ～今までにない支援のカタチ～ | 17 |
| JPF の機能と活動実績 | 18 |
| 運営支援者一覧 | 19 |

団体名称一覧

| | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| AAR : 特定非営利活動法人 難民を助ける会 | JEN : 特定非営利活動法人 ジェン |
| ADRA : 特定非営利活動法人 ADRA Japan | NICCO : 社団法人 日本国際民間協力会 |
| BHN : 特定非営利活動法人 BHNテレコム支援協議会 | PWJ : 特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン |
| GNJP : 特定非営利活動法人 グッドネーバース・ジャパン | WVJ : 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン |
| ICA : 特定非営利活動法人 ICA文化事業協会 | |

表紙写真（上から）：©ADRA、©AAR、©JPF、©JPF、©NICCO、©JPF

謝 辞

2010年1月12日午後4時53分（現地時間）、中南米に位置する人口約988万人のハイチ共和国で、マグニチュード7.0の地震が発生しました。

ジャパン・プラットフォーム（JPF）では、1月14日に出動を決定。企業や個人の皆様から寄せられた寄付金・ご協力及び政府支援金により、10団体による24の支援事業を実施いたしました。遠い国でありながら、幾多の地震を経験してきた日本からの支援は、多くの被災者を勇気づけることができたと感じています。

とはいえ、いつにもまして、支援の道りは険しいものでした。死者21万人以上、負傷者30万人以上の大惨事に対し、遠く日本にいる私たちは、支援の手を差し伸べることができるのか。過去に支援実績の乏しい地域で適切な支援を実施できるのか。出動までに全くの躊躇が無かったかと言えば、否定はできません。

折しも1月17日は阪神淡路大震災から丸15年。当時の様子が多くのメディアで取り上げられました。瓦礫の山となった神戸の映像と、ハイチの被災状況を重ねられた方も多かったのではないのでしょうか。実際、ハイチ支援のために、企業や個人の皆様からJPFに寄せられた寄付金は2.7億円に上り、2000年の設立以来、最高額となりました。

改めまして、ご支援をお寄せくださった皆様に、被災者の方々、現地で活動を実施したNGOに代わりまして衷心より御礼申し上げます。活動内容につきまして当報告書にてご報告させていただきます。忌憚のないご意見、ご指導を賜れましたら幸いに存じます。

JPFでは、自然災害や紛争による被災者のために、よりよい支援を目指し、これらも尽力して参る所存です。今後ともご支援、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2011年1月吉日
 特定非営利活動法人(認定NPO法人)
 ジャパン・プラットフォーム
 共同代表理事 長 有紀枝



支援概要

PROGRAM SUMMARY

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 事業期間 | : | 2010年1月～2011年12月（予定） |
| 資金規模 | : | 8.23億円余 |
| 総事業数 | : | 24事業（モニタリング事業含む） |
| 活動団体数 | : | 10団体 |
| 支援件数 | : | 692件（企業・団体・個人） |
| Term | : | Jan 2010～Dec 2011（to be completed） |
| Fund | : | ¥823mil |
| Number of Projects | : | 24（including Monitoring） |
| Number of NGOs | : | 10 |
| Number of Cooperation | : | 692（Corporations, Organizations, Individuals） |

必要とされる支援を、
必要な時に、必要な人々へ届けました。

死者 : 217,300人以上
負傷者 : 300,600人以上
倒壊家屋 : 97,000棟以上

出所: ハイチ政府による概算 (Estimate by the Government of Republic of Haiti)
国連人道問題調整事務所 (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs, UNOCHA)
(2010年2月18日)

マグニチュード : 7.0
発生日 : 2010年 1月 12日
発生時刻 : 16時 53分 (日本時間: 翌日6時53分)

出所: 国連人道問題調整事務所 (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs, UNOCHA)
(2010年1月12日)



1. 初動調査・対応

2010年1月16日～
308,325,064円



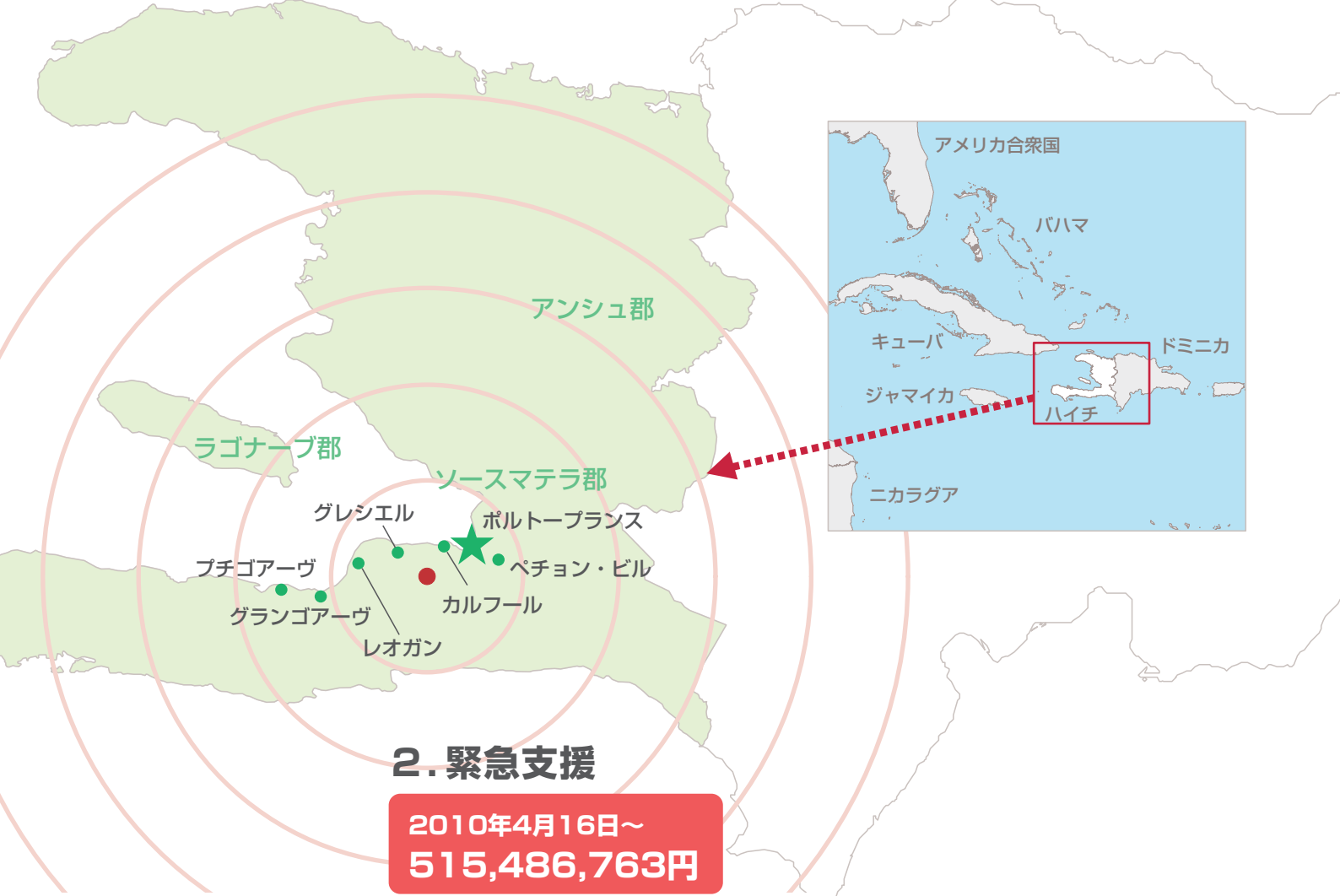
※緊急支援の総額には、企業支援による物資配布事業とモニタリング事業の金額を含みます。



初動調査・対応 ①
地震発生直後に現地入りし、被災者から被災状況や支援のニーズを聞き取り
©PWJ

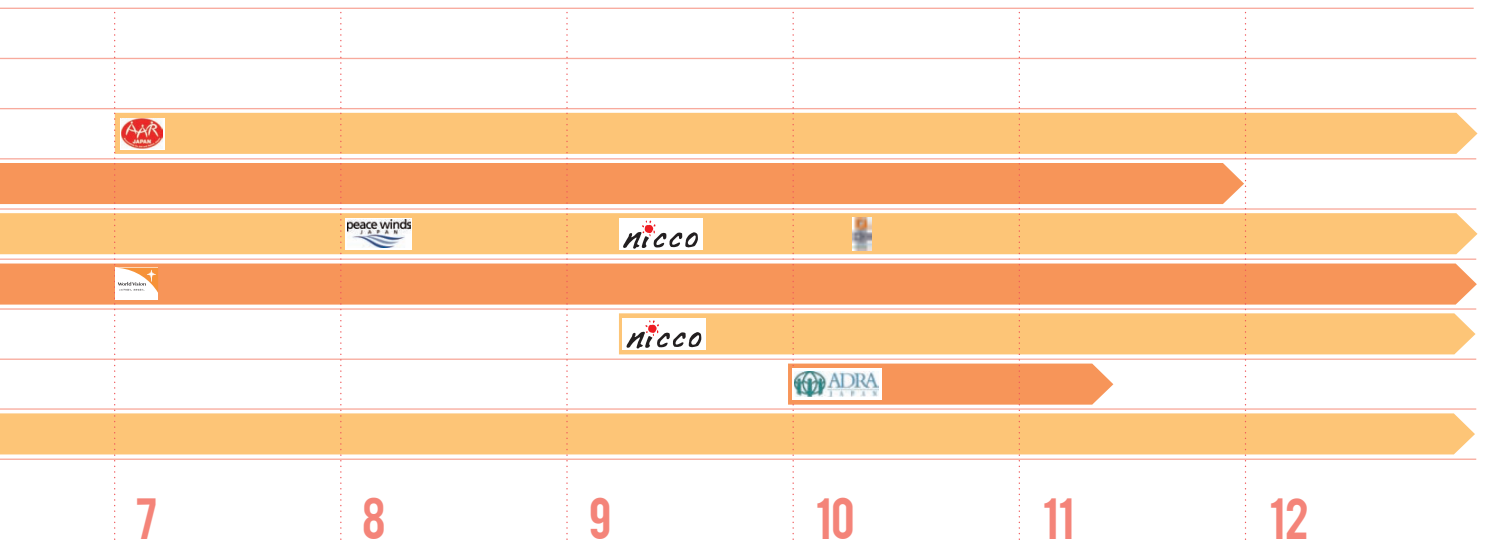


初動調査・対応 ②
ブチゴアープにて米や豆などの食糧を被災者に配布
©ICA



事業地モニタリング(2010.6.26~7.7)

事業地モニタリング(2010.10.27~11.14)



※JPF事業終了後も、自己資金や他助成金により現地での事業を継続予定。 ※NGOのロゴマークは各支援の種類における事業開始時期を表示。なお、1つの事業に複数種類の支援が含まれる場合があります。



緊急支援 ①
ポルトープランス近郊にある養護施設でのAARによる巡回診療の様子
©JPF



緊急支援 ②
カルフルにある学校敷地内に設置された男性用と女性用のトイレ
©NICCO

各NGOの強みを活かした支援を実施しました。

特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR)

<http://www.aarjapan.gr.jp/>



高橋 祐司

東京都出身
2003年から2005年にかけてアフガニスタンで地雷回避事業および障害者自立支援事業に従事
ハイチ事務所駐在代表として2010年7月に赴任

JPF の枠組みで可能になった迅速な支援

障害者を中心とした地震被災者の教育環境改善および医療サービスへのアクセス向上を目的として、ポルトープランス市とその近郊地域で二つの事業を実施しています。

一つ目は、国内最大規模の障害者施設である聖ビンセント校の仮設校舎・クリニックの建設です。被災後、テントを張ることなどでなんとか継続していた学校ですが、10月第一週に仮設校舎が完成、約300人の児童が新しい校舎で新学期を迎えました。また、車いすの人も入りやすいよう設計された仮設クリニックも12月に完成し、小児科医や理学療法士などが患者を毎日診察できるようになりました。

二つ目は、被災孤児や親元を離れた子どものいる養護施設への巡回診療です。近くに病院がなく、病気になるでも医師に診てもらえない状態でしたが、事業開始後、すでに600名の子どもたちが診療を受けました。

これらの事業は、災害被災者のニーズに迅速に対応できるJPFの枠組みがあって初めて可能となりました。学校に活気が戻り、施設で子どもたちが元気に歌えるのも、ご支援くださった皆様のお陰です。スタッフ一同、ハイチの復興に向けて今後も尽力していきます。



12月3日の「国際障害者デー」に合わせて行われた、聖ビンセント校の仮設教室とクリニックの落成式 ©AAR



巡回診療で訪れた養護施設「Foundation of Children for the future」の子どもたちとAARスタッフ ©AAR

特定非営利活動法人 ICA文化事業協会(ICA)

<http://www.icajapan.org/>



黒柳 姫紗美

海外事業ロジスティクス担当
事業コーディネート全般、会計管理、報告、事務局連絡に従事

復興の重要な役割を担う仮設学校建設

地震発生後、2010年2月、5月に引き続き、10月から3度目の緊急支援事業を実施しています。事業の実施場所は、郊外にあるプチゴアープ地域。支援を受けにくい場所に住む被災者を対象としています。

地震発生直後の初動調査時には、1146世帯に対する緊急食糧支援、5月には800世帯に対する食糧支援を行い、10月からは現地ニーズに合わせて小学校の仮設校舎の建設を始めました。仮設校舎ですが、耐震性に優れ、ハリケーンにも強い材質を使用しているため、最長15年は耐えられる構造です。同時に、生徒・教師用の机と椅子や給食室を設置し、学習指導を行うための学習キットや教材も配布しました。

私たちの仮設学校建設は、ハイチの復興に重要な役割を果たしています。地震によって学校に行けなくなった子どもたちを、大人の虐待や病気の蔓延から保護することができます。快適に学べる環境を提供することは、教育の質向上やメンタルケアにもつながります。最近では、仮設校舎が完成した後、多くの児童が通えるよう、現地の教師、父兄、PTAが協力してコミュニティ集会を開くなど、ポジティブな影響も出始めています。



小学校の生徒に筆記用具や算数セットを含む学習キットを配布 ©ICA



小学校の生徒・保護者・教師に事業説明を行った仮設校舎の建設現場で記念撮影 ©ICA

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)

<http://www.peace-winds.org/>



北原 聡子

ハイチ・ポルトープランス事務所
現地事業責任者
2010年1月18日に初動調査のため現地入り。その後、ポルトープランス事務所での事業責任者として物資配布支援・教育環境整備などの事業を総括

被災者のハイチ人スタッフと共に取り組む復興支援

地震発生直後、私たちは JPF からの助成金を受け、いち早く現地入りし、緊急支援を開始しました。2010年7月までの被災者支援では、数百万に上る被災者の中から、よりニーズの高いポルトープランス市とその周辺地域で、行政や他の国際援助団体から支援を受けていない被災者を支援対象に決定。テントや瓦礫除去工具セットなどの緊急物資の配布および被災学校3校の学校再開支援を実施しました。

8月からは、さらに10校の学校再開支援に焦点を当て、仮設教室の建設、学校家具の供与、生徒への通学バック配布を実施しています。また、被災により心に傷を負った児童を教員が心理面でサポートできるように、教員の心理社会サポート講座や学校支援委員会の能力強化講座などを展開しています。

私たちが雇用しているハイチ人スタッフは、彼ら自身も被災者ですが、ハイチ復興のために力を合わせて事業に取り組み、被災者の方々からたくさんの感謝の声を頂いています。まだまだ多くの瓦礫や崩れた建物がそのまま放置され、被災者キャンプも千を超える状態ですが、日本の皆様からの温かいご支援のお陰で、着実にハイチ復興の一端を担っています。



ミシェルドゥモンテーニュ校にて配給した文房具セットを手に笑顔の子どもたち ©PWJ



ジャンラシーン校の仮設教室建設をモニタリング中の国際スタッフ ©PWJ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)

<http://www.worldvision.jp/>



加藤 奈保美

プログラム・オフィサー
大学院修了後、建設コンサルタント会社に勤務し、自然災害を中心とした国内外のインフラ事業や建設行政に係る調査業務に従事。2008年6月、緊急人道支援課のプログラム・オフィサーとしてWVJに入団後、サイクロン・ナルギス被災者支援(ミャンマー)やハイチ震災被害者に対する事業形成や実施を担当

根強い貧困が残る被災地に届けた効果的な支援

地震発生直後の2010年1月から現地で初動調査を開始。その後2月から2ヵ月間、首都ポルトープランスにおいて緊急人道支援物資(家族用テント)を配布し、被災直後から被災者の方々へ必要な物資を届けました。

7月からは、ポルトープランスの避難キャンプ、また多くの被災者が避難した地方において、トイレの設置や安全な水の供給を実施。衛生に関する意識啓発などの事業にも取り組んでいます。これらの緊急人道支援を通じて、子どもたちを含めた被災地の人々に、安全な生活空間や生活環境を提供することが可能となっています。

震災前から根強い貧困の中で暮らすハイチの人々が、何もかもを失う被災状況でしたが、早い段階から現地カウンターパートとともに支援活動を実施できたことで、被災地に大きなインパクトをもたらすことができました。

しかしながら、いまだ支援は十分に行き渡ってはおらず、まだまだNGOのやるべきことは多く残されています。今後もJPFと連携しつつ、適切で効果的な支援活動を実施していきたいと思っておりますので、支援者の皆様には引き続きお力添えいただければ幸いです。



加藤スタッフが被災地の子どもたちから聞き取り調査を実施 ©WVJ



JPFの助成を受け、首都ポルトープランスで配布・設置された家族用テント ©WVJ

日本からのご支援は、様々な形で被災地の復興に活用されました。

特定非営利活動法人 BHNテレコム支援協議会(BHN)
<http://www.bhn.or.jp/>



被災者の情報アクセスを可能にした無線システム

ハイチの地方都市・レオガンに住む人のほとんどは、新聞やテレビへのアクセスがなく、ラジオ放送が重要な情報源となっています。ところが、地震被災者の8割以上はラジオさえも持っていませんでした。そのためニュースや天気予報など、生活に必要な不可欠な情報から切り離された生活を余儀なくされていたのです。

そこで私たちは JPF の助成金を受け、レオガン市内にある被災者のキャンプ村などに、日本の防災無線システムに似た CA (Community Addressing) システムを設置

しました。このシステムにより、住民はラジオのニュースや音楽、天気予報など、日常的に情報にアクセスできるようになりました。

また、現地でコレラが発生した後は、国連機関や国際 NGO が CA システムのマイクを使って住民に予防方法を繰り返し伝えたり、各地域のリーダーがハリケーンの接近を知らせて住民に必要な対応を呼びかけたりするなど、感染予防や防災対策に大きく役立っています。

※BHN では本事業の他に、FM コミュニティラジオ放送局 6 局の再建支援も行いました。



キャンプ村に設置されたCAシステム。9メートルのポールの上にはソーラーパネル、外灯、スピーカーが備わっている ©BHN



CAシステムは国連機関や国際NGOも活用。ボックス内にはアンプ、ラジオ、マイク、バッテリーなどが設置されている ©BHN

感謝の言葉



アンリクロード・レコント氏
 キャンプ村委員長、
 教員、弁護士

震災後、音楽さえも聴くことのできなかった被災者たちが、スピーカーから流れてくる音楽やお祈りを聴いて、心を癒すことができました。以前は重要な情報は住民の家やテントを一軒ずつ回って伝えるしかありませんでしたが、今ではマイクを通して一斉に、また繰り返し伝えることができるようになりました。ずっと情報を伝える手段がほしかったのですが、どうしていいかわかりませんでした。CA システムの恩恵は計り知れません。支援をしてくださった日本の皆様に心から感謝したいです。

特定非営利活動法人 ジェン(JEN)
<http://www.jen-npo.org/>



衛生環境の改善により病気の感染リスクを軽減

地震により破壊されたコミュニティの給水施設を修復し、住民に衛生促進キャンペーンを行うことで、ハイチの人々が清潔な水にアクセスし、衛生的な環境で生活する一助となっています。

給水施設は水ポンプと外壁を高くすることで、あふれた水が水汲み場に入り、汚染されないようにしています。また、水ポンプの周りに排水溝を作り、溢みができないようにすることで、蚊を媒介する病気の感染リスクを減らす仕組みになっています。さらには、水汲み場と洗濯場を分けることにより、清潔な水を確保する

こともできました。

一般にハイチでは、技術や部品の不足のため、給水施設の維持管理が困難です。そこで JEN では、非常に容易な造りの給水施設を設置しています。同時に、人々が実際に衛生的な行動を取る一助となるよう、石けんでの手洗いをはじめとした衛生促進を行っています。

機能しなかった給水施設をただ取り換えるのではなく、施設周りの衛生環境の改善にも取り組むことで、私たちの事業は被災者の方々に歓迎をもって受け入れられているようです。

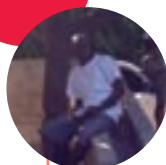


傾斜のある排水溝を設置したことで、ポンプ周りの溢みを解消。蚊を媒介する病気のリスクが減った ©JEN



ポンプの上昇であふれた水が水汲み場に入ることがなくなり、水が汚染されるリスクが減った ©JEN

感謝の言葉



Jude Agusma さん
 39歳、男性、
 レオガン州の農家

給水施設のすぐ後ろに農地を持っていますが、絶えず洗濯排水などが溜まっているため、以前はまともに野菜を作ることができませんでした。JEN が修復してくださった給水施設はとても清潔なので、汚れても簡単に清掃することができそうです。お陰で蚊が出たり、いやな臭いが漂ったりすることもなくなりました。衛生環境を改善してくれた JEN と JPF の支援事業には、大変感謝しています。

社団法人 日本国際民間協力会(NICCO)

<http://www.kyoto-nicco.org/>

NICCO

行政機関から評価された耐震性の高い仮校舎建設

地震発生 10 日後に現地入りし、被災者の支援に向けた調査や支援物資の配給を行いました。

その後、ハイチ教育省からの要請を受け、JPF を通じていただいたご支援により、カルフル市にて仮校舎建設による授業再開支援、ならびに、学校敷地内のトイレと手洗い場建設による衛生改善事業を実施しました。また、日本人の建築・大工専門家を派遣し、現地の建築家や大工に対して耐震性の高い仮校舎建設の技術移転も行いました。

完成した仮校舎は耐震性が高く、教育省やカ

ルフル市から高い評価を受けました。ブルーシートの下で授業を受けていたり、建物に入ることや怖がっていた生徒たちも、安心して勉強に励むことができています。また、校内のトイレと手洗い場の設置は、生徒の衛生意識向上をもたらし、校内清掃や手洗いの習慣を促進しました。学校の衛生環境が改善することで、コレラなどの感染症抑止にも寄与しています。

ハイチでは地震やハリケーンなどの自然災害、コレラの蔓延など問題が山積みですが、日本からのご支援はこうした被害の再発防止に活用されています。



たくさんの生徒たちで賑わう耐震性の高い仮校舎 ©NICCO



学校敷地内に建設された手洗い場で手を洗う生徒たち ©NICCO

感謝の言葉

フランシス・ジョネット氏

カルフル市立
小中高等学校、校長



これまでになかった職員室や広い教室、また、生徒が遊ぶスペースなど、充実した設備を備えた新しい校舎で新学期を迎えることができました。教師も生徒も喜んでおり、日本からのご支援に大変感謝しています。現在、570名の生徒が仮校舎で授業を受けていますが、子どもたちは震災前より勤勉になり、学校に活気が戻ってきました。さらに、学校敷地内に建設された手洗い場での手洗いは、流行している感染症のコレラを予防するために非常に役立っています。

コラム

ハイチの素顔

植民地と独裁政権の歴史

ハイチはカリブ海中央部に位置する共和国。人口は約988万人で、9割がスペインやフランスの植民地時代にアフリカ大陸から連れて来られた人々の子孫である。“ハイチ”が先住民の言葉で「山ばかりの土地」を意味する通り、国土の4分の3は山地になっている。

1492年、コロンブスが「エスパニョーラ島」と命名し、スペインの植民地に。1697年には島の西側3分の1(現在のハイチ国土)が仏領となる。1804年には仏軍を駆逐、独立を達成し、世界初の黒人共和国となったが、1915~1934年までは米軍下に、1957年~86年までデュヴァリエ大統領の独裁政権下に置かれる。

その後もクーデターや武力衝突で国情不安定が続いたため、2004年からは治安回復などの目的で、ブラジル軍を主力とする「国連ハイチ安定化ミッション」が駐留している。

西半球で最も貧しい国

ハイチは“西半球(※)の最貧国”とされ、2009年に国連機関が発行した「人間開発報告書」によると、人間開発指数は182か国中149位、人間貧困指数では135か国中97位に位置している。一日2ドル以下で生活する人が約72%を占め、15歳以上の非識字率は4割に迫る。

国民の7割近くは農業に従事しているが、規模が零細で生産性が低く、伝統的農法に依存している。また、土地の荒廃や安い農作物の大量輸入などが原因で、多くの農民が田畑を捨て仕事を求めて都市部へ流出した。その結果、失業率の悪化に拍車を掛け、更なる貧富の格差を生み出している。

(※)グリニッジ子午線から西回りに180度までの地域。

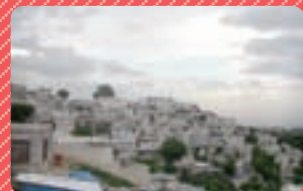
生活に根づくブドゥー教

国民の約95%がキリスト教を信仰し、多くはブドゥー教も並行して信仰している。1791年にフランス人に対する蜂起を率いたのは、ブドゥー教の司祭だった。今日でも特に農民や都市の下層階級の生活に深く根付いている。

ブドゥー教は西アフリカのベナンに起源を発し、アフリカから連れて来られた黒人の精霊信仰が民間信仰に発展したもので、教義や経典はない。ブドゥー教の成立・発展は複雑だが、根底には現世と霊的世界との結びつきがある。生者は死者となり、死者は精霊となるが、精霊は様々に姿を変えた神そのものでもある。歌やダンス、動物の生贖や憑依などの儀礼を通じて、人々は神の恩寵に触れる。



町のいたるところで、道端に出されたお店が集まる青空市場を見ることができる。後ろに貼られているポスターは、大統領選挙時のもの ©JPF



ハイチの一般的な家屋。レンガを積み上げコンクリートで固めただけの脆弱な構造のため、地震による倒壊の被害が拡大した ©JPF

今回の支援事業で得た教訓を、次へとつなげます。

モニタリング・評価概要

※敬称略

派遣者：浦部浩之 獨協大学 国際教養学部言語文化学科 准教授
 椎名規之 JPF事務局 事業部長
 早川香苗 JPF事務局 事業部員

調査地：ポルトープランス市および近郊（カルフル含む）、
 レオガン郡（レオガン、グランゴアープ、プチゴアープ）

調査期間：2010年6月26日～7月7日
 2010年10月27日～11月14日

調査内容：事業地調査（AAR、ADRA、BHN、ICA、JEN、NICCO、PWJ、VWJ）
 情報交換等（在ハイチ日本大使館、ハイチPKO駐屯地、DFID、IFRC、
 IOM、JICA、UNICEF）

ICAの事業地で、物資配布事業の裨益者に対して聞き取り調査を実施
 ©JPF



NICCOが被災者キャンプの敷地内に設置した、仮設トイレを視察
 ©JPF

主な評価

支援全体における位置づけの明確性

現地の行政機関や他国の支援団体との情報交換などを通じ、JPF参加NGOは被災地のニーズを的確に把握していた。その結果、各支援事業の内容や対象地域の選定も適切に行われていた。他の援助機関との地域分担・役割分担にも注意が払われるなど、ハイチ支援全体における位置づけが明確だったことは高く評価できる。

きめ細やか且つ柔軟な支援

地震発生前には現地になかった防災無線の普及や、雨季の洪水を勘案した給水施設の再建など、日本らしいきめ細やかな支援は、被災者の生活環境改善に大きく貢献した。また、治安状況の悪化やコレラの蔓延など刻々と変化する状況にも、各団体が工夫を凝らし、柔軟に対処がなされていた点は評価に値する。

被災者の自立を促す出口戦略

本事業には、日本から建築・大工の専門家を招いて、耐震性の高い建築技術を現地の建築家や大工に指導したり、衛生知識の普及のようなソフト支援を同時に進めるなど、NGOが現地を去った後も支援の継続性が期待できるものが多かった。このような出口戦略に富んだ支援は、被災者の自立を促す意味でも、今後も継続する価値がある。

専門家の視点

日本とハイチの新たな関係を築く支援に期待

困難な自然・社会環境のもと、JPF参加NGOの多くがハイチ地震被災者支援に汗を流していた。各団体が現地のニーズを的確に把握し、効果的に事業を展開していたことは高く評価できる。給水施設の再建や防災無線の設置、学校再建を通じた人づくり支援などは、日本ならではの創意と丁寧が見られ、他国の援助機関からも注目を集めていた。

ハイチの人々からも感謝の言葉を数多く聞いた。その一方で、支援が日本からのものだとして認識していない被災者も少なくなかった。ラテンアメリカでは一般に、移住者や日系人が築き上げてきた信頼が財産となり、日本に対するイメージは大変よい。だがハイチではそうした歴史的な絆がないため、日本の認知度は低いようである。

しかしだからこそ、新たな関係を築き得るとも言える。ハイチは元来、貧困や脆弱なガバナンスなど多大な問題を抱えていた。そこを襲った今回の地震の爪痕はあまりに大きく、再建への道りは遠い。JPFには今後も支援を継続していくことを強く期待したい。そして「日本の顔」を示してほしい。そうすることで、支援事業が二つの国の人々をつなぎ、新たな友情の礎になるからである。

主な提言

日本のプレゼンスを高める工夫の必要性

モニタリング中に裨益者へインタビューした際、支援がどの国のNGOによって行われているか、知らないケースが少なくなかった。ハイチにおける日本の知名度が高くないことも一因だろうが、だからこそ、各NGOが支援活動を行う際には、その支援が日本人々から送られていることを認識してもらうための更なる工夫が必要である。

将来像を見据えた支援事業の位置づけ

NGOによる人道支援は、少なからず当該国・地域の政治、経済、社会環境に影響を与えることになる。支援対象国・地域の将来像と結びつけて、各団体の行う支援の意義や影響を位置づけることは重要であり、個別事業の計画書にも将来像を見据えた理念やビジョンを明記することは有益である。

支援範囲や期間の慎重な見極め

ハイチは元来、開発支援が必要な国であり、震災が重なったことで援助依存も懸念される。現在の生活環境を被災前と比較すると、分野によっては若干、改善している状況も見られる。JPFは2011年末まで支援を継続する予定だが、「どの分野を、どれだけの期間、どのような将来像を持って」支援するのか、慎重に検討すべきである。



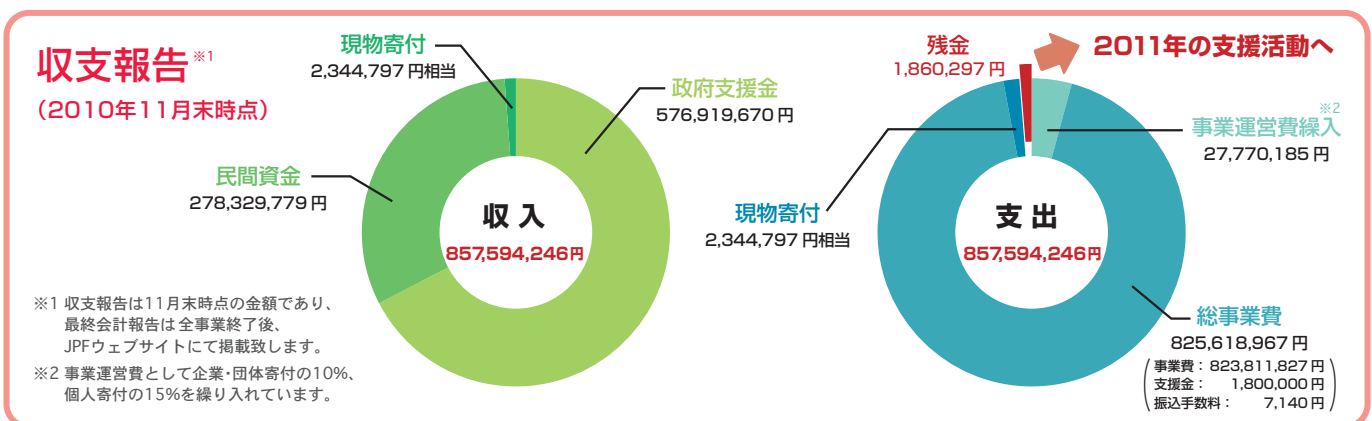
浦部 浩之 氏

獨協大学国際教養学部
 准教授
 ラテンアメリカ地域研究、特に
 地域安全保障問題や地域協
 協力、民主主義支援が専門

| 事業期 | 団体名 | 事業名 | 実施期間 | 財源 | 当初予算額 | | |
|---------|----------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|---|--|--|--|
| 初動 | 調査 | BHN | 被災コミュニティFM放送局再建等の可能性調査 | 始期: 2010年4月5日 終期: 2010年4月17日 | 民間 | ¥2,995,720 | |
| | | ICA | ハイチ地震による被災者の初動調査および物資配布 | 始期: 2010年2月2日 終期: 2010年3月3日 | 政府 | ¥6,061,960 | |
| | | JEN | 初動調査・緊急支援事業 | 始期: 2010年1月16日 終期: 2010年2月15日 | 政府 | ¥10,368,550 | |
| | | NICCO | ハイチ地震被災者支援のための初動調査および緊急支援事業 | 始期: 2010年1月19日 終期: 2010年2月13日 | 政府 | ¥11,037,285 | |
| | | PWJ | ハイチ地震初動調査 | 始期: 2010年1月18日 終期: 2010年1月31日 | 民間 | ¥2,894,380 | |
| | | WVJ | ハイチ地震被災者緊急支援に関する初動調査事業 | 始期: 2010年1月16日 終期: 2010年2月1日 | 民間 | ¥1,338,030 | |
| | 対応 | AAR | ポルトープランス市および近郊における地震被災者への物資配布事業 | 始期: 2010年2月25日 終期: 2010年4月30日 | 民間 | ¥49,725,514 | |
| | | GNJP | ハイチ地震被災者支援物資配布事業 | 始期: 2010年2月26日 終期: 2010年3月11日 | 政府 | ¥3,916,000 | |
| | | JEN | ハイチ地震被災者支援緊急支援事業2 | 始期: 2010年2月16日 終期: 2010年5月27日 | 政府 民間 | ¥16,739,100 ¥37,034,000 | |
| | | NICCO | ハイチ地震被災者へのシェルター用資機材配布および衛生改善支援事業 | 始期: 2010年2月16日 終期: 2010年6月15日 | 政府 民間 | ¥41,680,342 ¥12,290,020 | |
| | | PWJ | ポルトープランス市および周辺における物資配給および学校再開支援事業 | 始期: 2010年2月5日 終期: 2010年7月20日 | 政府 | ¥54,247,370 | |
| | | WVJ | ハイチ ポルトープランスにおける震災被災者に対する緊急支援 | 始期: 2010年2月2日 終期: 2010年4月1日 | 政府 | ¥57,996,793 | |
| | | 小計:12事業 | | | | 政府 民間 | ¥308,325,064 ¥202,047,400 ¥106,277,664 |
| | | 緊急 | AAR | ポルトープランス市および近郊における障害者を中心とする地震被災者への教育・医療支援 ★ | 始期: 2010年7月1日 終期: 2011年2月28日 | 政府 民間 | ¥41,678,805 ¥53,481,278 |
| BHN | 被災コミュニティ放送局の再建等 | | 始期: 2010年6月1日 終期: 2010年11月30日 | 民間 | ¥26,334,560 | | |
| ICA | ハイチ地震による被災者への物資配布と緊急支援 | | 始期: 2010年4月20日 終期: 2010年5月24日 | 民間 | ¥10,272,350 | | |
| ICA | プチゴアブ地域における学校再開支援事業 ★ | | 始期: 2010年10月7日 終期: 2011年1月28日 | 政府 | ¥24,680,120 | | |
| JEN | ハイチ地震衛生促進・給水施設改善事業 ★ | | 始期: 2010年5月28日 終期: 2011年2月28日 | 政府 | ¥88,605,503 | | |
| NICCO | ハイチ地震被災者のための学校再開と衛生改善支援事業 | | 始期: 2010年5月21日 終期: 2010年9月5日 | 民間 | ¥45,870,920 | | |
| NICCO | ハイチ地震被災者のための仮設住宅建設と被災児童の就学支援事業 ★ | | 始期: 2010年9月6日 終期: 2011年1月31日 | 政府 | ¥58,251,800 | | |
| PWJ | ポルトープランス市および周辺における学校再開支援事業 ★ | | 始期: 2010年8月2日 終期: 2011年2月28日 | 政府 | ¥90,051,680 | | |
| WVJ | ハイチにおける地震被災者に対する水および保健衛生緊急支援事業 ★ | | 始期: 2010年7月1日 終期: 2011年3月31日 | 政府 | ¥68,256,002 | | |
| 小計:9事業 | | | | | 政府 民間 | ¥507,483,018 ¥371,523,910 ¥135,959,108 | |
| モニタリング | JPF | モニタリングおよび事業実施報告書作成事業 ★ | 始期: 2010年5月17日 終期: 2011年1月31日 | 政府 民間 | ¥3,348,360 ¥1,331,000 | | |
| | 小計:1事業 | | | 政府 民間 | ¥4,679,360 ¥3,348,360 ¥1,331,000 | | |
| 物資輸送 | ADRA | タイヤ館サンダル配布事業 | 始期: 2010年9月30日 終期: 2010年11月12日 | 民間 | ¥2,537,285 | | |
| | ICA | ハイチ地震被災者への富士通電池・懐中電灯配布支援事業 | 始期: 2010年4月21日 終期: 2010年5月24日 | 民間 | ¥787,100 | | |
| | 小計:2事業 | | | | 政府 民間 | ¥3,324,385 ¥0 ¥3,324,385 | |
| 合計:24事業 | | | | 政府 民間 | ¥823,811,827 ¥576,919,670 ¥246,892,157 | | |

※ 現在実施中の事業があるため、当初予算額のみ掲載。
※ ★の事業は現在実施中。

※ 事業名については、契約書記載のものとします。
※ 全事業は2011年12月終了予定。



市民社会の持つ多様なリソースを活用した支援を実施しました。



2010年11月現在

企業・団体・個人の皆様から、合計 692 件のご支援を頂きました。
皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

資金によるサポート

| | |
|--|------------------------------------|
| IXSS | カプスゲル・ジャパン グループ社員募金とマッチング |
| アイシングループ | キッコーマン |
| アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、アイシン・エイ・ダブリュ、 アイシン軽金属、アイシン開発、アイシン機工、アイシン・エーアイ、 アイシン辰栄、アイシン・エイ・ダブリュ工業、豊生ブレーキ工業、 アドヴィックス | 喫茶ナチュラル 写真サークル「なちゅフォト」のチャリティイベント寄付 |
| ICE DYNASTY “VOICE” の iTunes での売上 | クレイ |
| アサヒビール | グンゼ 社員募金とマッチング |
| アサヒワンビールクラブ | JFE ホールディングス |
| アサヒビールグループ有志 | ジェイテクト |
| アシード お茶の水大学図書館の自販機収入の一部 | 資生堂グループ グループ社員募金 |
| アンリツ 社員募金 | 新日鉱ホールディングス |
| イオングループ お客さま、及び従業員からの募金とイオン 1%クラブ | 新日本製鐵 |
| 伊藤忠商事 義援金と社員募金 | ジャパンエナジー JOMO ふれあい基金とマッチング |
| 伊藤忠エネクス | スターツ首都圏千曲会 |
| 伊藤忠テクノソリューションズグループ 社員募金 | 積水ハウスグループ グループ社員募金 |
| 伊藤忠テクノソリューションズ | セブン&アイ アベスコ基金 |
| エスエス製薬 | 双日グループ |
| NEC グループ 社員、労働組合員からの募金 | ソフトバンクグループ グループ社員募金 |
| NTT ドコモ | ソフトバンクモバイル 「ハイチ大地震 義援金プロジェクト」による募金 |
| Fプロジェクト | 損保ジャパンちきゅうくらぶ |
| 大阪ガス “小さな灯” 運動基金 | 武田薬品工業 |
| 大阪ガス社員有志 | 労働組合による募金呼びかけ 従業員募金とマッチング |
| 大阪証券金融 | 智昌加工 |
| 岡部 | 千葉海運産業 |
| 料理道具オクツ | 帝人 |
| お茶の水女子大学グローバル協力センター | テレビ朝日ドラえもん募金 |
| オムロン | デンソー |
| 花王 花王ハートポケット倶楽部と花王株式会社 | デンソーはあとふる基金 |
| カシオ計算機 | 東京海上日動カードサービス |
| カネカ、カネカ労働組合 株式会社カネカとカネカ労働組合による寄付 | 東京海上ホールディングス |
| | 獨協大「ハイチ・チリ支援部隊」 獨協大学の学生による募金活動 |
| | 豊田合成 |

| | | | |
|--------------------------|------------------------------|--------------------------------------|---|
| トヨタ車体 | トヨタ車体 名大会有志一同 名大会社会貢献活動による募金 | 三井物産 | 中国支社 社員有志募金 |
| 豊田通商 | | 三菱ケミカルホールディングス | |
| トヨタ紡織 | | 三菱重工 | |
| ニチレイふれあい基金 | | 三菱倉庫 | |
| 日蓮宗東京都南部宗務所 | | 三菱東京 UFJ 銀行 | 三菱東京UFJ銀行 有志行員の社会貢献基金「Club For You」とマッチング |
| 日鉱金属 社員募金とマッチング | | | 三菱 UFJ 銀行厚木支店、江坂支店 支店有志による募金 |
| 日本建設業団体連合会 | | 民主党 民主党と民主党国会議員団 | |
| 日本労働組合連合会（連合） メーデーにおける募金 | | メイテックグループ | |
| 野村グループ | 野村グループ 社員募金 | モノノフ | |
| 博報堂 DY ホールディングス | | ヤフー YAHOO！ボランティアによる義援金 | |
| パナソニック | | ユニバーサル ミュージック | |
| パナソニックグループ労働組合連合会 | パナソニック ホームアプライアンス労働組合 奈良支部 | 横河電機 | |
| | | 横河グループ福祉センター（100円募金の会） | |
| パナソニック電工グループ、 | 労働組合と協働による | LOVE FOR HAITI チャリティイベントによる寄付 | |
| パナソニック電工労働組合 | 社員募金とマッチング | Candle JUNE、CLASKA、ELDNACS、マスタービューなど | |
| パブリックリソースセンター | Give One を通じた義援金 | ララ・プラン | 店舗募金と、「LOVE GIRLS MARKET」のチャリティ T シャツの売上による寄付 |
| 阪和興業 | | リコー | |
| 東日本旅客鉄道 | | 菱食 | |
| 平川市立尾上中学校 | 生徒、職員を含む全校を挙げての募金 | 霊友会ありがとうこだま基金 | |
| ファイザーグループ | グループ社員募金とマッチング | ロート製薬 かるがも基金 社員募金とマッチング | |
| フィリップ モリス ジャパン | 社員募金とマッチング | ローム | |
| フォートダッジ | | ロック・フィールド 社員募金 | |
| 富士通 | | ワイス | |
| 富士フィルムホールディングス | 国内グループ会社を代表して | Y's table グループ チャリティディナーによる寄付 | |
| BRIO HAIR | スタッフ、お客様の協力イベントでの売上 | WOWOW | |
| ボランティア J | JAL グループ社員募金 | | ※個人の皆様からのご寄付 496 件 |
| マイクロソフト | 社員募金とマッチング | | |
| 毎日新聞社会事業団 | | | |
| マルハニチログループ | | | |
| 丸紅 | | | |
| 三井住友海上グループ | グループ社員募金と三井住友海上グループ | | |
| (現 MS&AD インシュアランス グループ) | ホールディングスによるマッチング | | |

50 音順

サービスによるサポート

全日本空輸

支援者渡航の協力と物資の空輸。活用：AAR2名、ADRA3名

日本郵船グループ

支援物資の輸送。1社の支援物資を無償海上輸送（隣国ドミニカまで）。配布：ADRA

三菱東京UFJ銀行

義援金口座の開設。振込手数料の免除

ソフトバンクモバイル

携帯電話の貸出し。活用：AAR、GNJP、ICA、JEN、PWJ、WVJ
ソフトバンクチャリティダイヤルによる寄付呼びかけ
コンテンツ（待受など画像）購入による寄付呼びかけ

ユナイテッドピープル

寄付の呼びかけ。イーココロ！

パブリックリソースセンター

寄付の呼びかけ。Give One

ヤフー

寄付の呼びかけ。YAHOO！ボランティア

Y's table グループ

チャリティーディナーの開催

組織力によるサポート

カプランジャパン

カプラン代表石渡氏のブログで寄付の呼びかけ
"Language Teaching for a Better World"

伊藤忠商事

東京本社、大阪本社、名古屋支社で寄付の呼びかけ

獨協大「ハイチ・チリ支援部隊」

獨協大学の学生による募金活動

自治体国際化協会市民国際プラザ

義援金受付団体の紹介。メールマガジンによるJPF支援活動の紹介

名古屋国際センター

ホームページ上で寄付の呼びかけ

日本記者クラブ

記者会見。2010年1月25日開催

日本製薬工業協会

国際委員会の会員会社へ寄付の呼びかけ

日本経済団体連合会

1%クラブニュースによる寄付の呼びかけ

物資によるサポート

豊田自動織機

ショベルローダー1台。お申し出

富士通

乾電池10,368個、懐中電灯2,688個。配布：ICA

レンゴー

マスク1,000枚（50枚入り×20小箱）。配布：AAR

サイトウ・キネン・フェスティバル松本

Tシャツ1,000枚。お申し出

ブリヂストン タイヤ館

サンダル5,000足。エコピアサンダルプログラム。配布：ADRA

カネカ

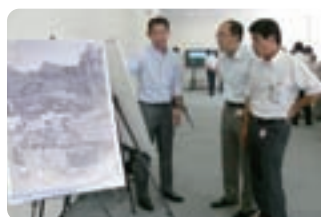
毛布1,000枚。お申し出



©JPF



©AAR



©JPF



©ADRA

日本製薬工業協会 様



宮澤 清治 様

国際部
部長

国境を越えた健康への願いを JPF と具現化

日本製薬工業協会（製薬協）は、革新的で有用性の高い医薬品の研究開発を通じて製薬産業の健全な発展と、日本と世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目指す、研究開発志向型製薬企業の団体です。専門知識、ノウハウ、経験を活用することにより、発展途上国における医薬品供給の改善に貢献する国際協力を進めています。また、緊急支援においても、JPF と連携の可能性を模索していました。

そうした最中に、多くの犠牲者と被害をもたらしたハイチ地震が発生しました。そこで国際製薬団体連合会と連携して、製薬協はすぐさま会員企業に協力を依頼しました。武田薬品は会社と労働組合の連携による募金（マッチングギフト）を実施し、ファイザーはグループ各社による義援金を JPF へ拠出するなど、被災者支援に参加しました。また、日本たばこ産業や鳥居薬品は JPF の平時の運営をサポートすることにより、団体の即応能力を支えています。

製薬協が会員企業に協力依頼をする以上、義援金が支援活動に役立っているか、フォローアップする責任があると思っています。その点、JPF からは定期的な進捗報告や 1 円単位の詳細な会計報告が届くので、透明性を高く評価しています。

医薬品を通じて全人類に共通する「健康」に携わる私たちは、人道支援に対しても強い想いがあります。被災国の薬事法など制約は多々ありますが、国境を越えて健康を願う私たちの心を、JPF と一緒に具現化できることを期待しています。

イオン 1%クラブ 様



友村 自生 様

イオン1%クラブ
事務局長

お客様と共に行動する社会貢献

イオングループは、「平和・人間・地域、その真ん中に、お客様」という基本理念を掲げ、継続的に社会貢献活動を行っています。ハイチ地震では店頭募金を実施して、多くのお客様からご寄付を頂戴しました。そのほぼ同額をイオン1%クラブからマッチングし、最終的には1億円をJPFへ寄付することができました。これからも店舗という「場」を持つ小売業の特徴を活かして、「お客様と共に」行動していきたいと考えています。

私たちが寄付先を選ぶ際のポイントは以下の4つです。

「公平性」：偏りのない活動をしていて、社会に対して公平であるか。

「直接性」：本当に支援したい対象にたどりつくまでの資金の流れが複雑でないか。

「透明性」：会計報告や事業報告などで説明責任を果たしているか。

「信頼感」：同じ未来を見ている、気持ちを一緒にできるという信頼感があるか。

なお、イオングループでは店頭募金を実施する際、贈呈先を必ず明記することにしてあります。今回の募金では、「JPF とはどんな組織か」という説明文をも表示しました。まだまだ JPF は一般社会からの認知度が低いのも事実でありますので、今後とも、認知度の向上に向けてお手伝いしていきたいと思っております。

新日本製鐵株式会社 様



金子 敦之 様

総務部
庶務グループリーダー

復興の願いを託せる JPF の安心感

新日鉄グループは、鉄事業を中核として、豊かな価値の創造・提供を通じ、産業の発展と人々の暮らしに貢献することを基本理念としています。私たちは、例えば土木や建築分野の鋼材の開発・販売などを通じて、世界各地の社会資本整備に貢献しており、このたびのハイチ地震によって町中が瓦礫の山と化した様子には大変心を痛めました。そこで、被災された地域の早期の復興を願い、義捐金を寄付することにしました。

2006年のインドネシア・ジャワ島地震で寄付して以来、JPF がメンバー NGO の活動を通じて、必要な支援を的確に被災者に届けていると分かる活動報告を受けていました。JPF なら私たちの義捐金を「活かしたお金」として現場での支援活動に使ってもらえると考え、ハイチ地震では迷わず JPF へ寄付することにしました。また、税控除の資格（認定 NPO 法人格）を有していることもさらに安心感を高めた理由です。

近年、世界各地で災害が頻発しており、我が社がそのすべてに対応することは困難ですが、海外の自然災害に対して私たちが復興への願いを託す時には、JPF を第一の選択肢にしています。

LOVE FOR HAITI とは

2010年1月13日(日本時間)に起きたハイチ大地震直後、MINMIから若旦那、Candle JUNEへアーティストたちの思いが伝わりハイチ大地震に対する支援を目的として立ち上げたチャリティ企画です。

ライブイベントをはじめ、チャリティオークションやフリーマーケットなど、様々なイベントを通してハイチの現状を伝え、支援を続けてきました。

一度きりのチャリティイベントで終わらせるのではない今までにないチャリティの形を作ろうと1年間継続してきたプロジェクト。それが「LOVE FOR HAITI」です。

これまでの歩み

2010

●ライブイベント／●ブース展開

- 2.13 1st STAGE @神戸 長田神社
- 2.14 2nd STAGE @目黒 CLASKA
- 3.14 3rd STAGE @STUDIO COAST
- 4.29-30 4th STAGE @目黒 CLASKA
- 5.22-23 GREENROOM FESTIVAL @横浜 赤レンガ
- 6.5-6 FREEDOM 2010 @淡路島 国営明石海峡公園芝生広場
- 10.23-24 SONG OF THE EARTH @新潟県川口町 運動公園

2011

- 1.12 FINAL STAGE @渋谷 AX

●チャリティーイベント

ELDNACS 店舗募金箱／フリーマーケット
オークション／物販 (チャリティTシャツ・タオル)

カルフル市長からの感謝状

カルフル
2010年6月30日

LOVE FOR HAITI 関係者各位、

カルフル市議会は、LOVE FOR HAITI メンバーが地域の学校建設に携わったことにより、復興支援のサポートが得られたことに感謝の意を表します。

と同時に、この機会に私どもにとって優先度の高い事業をお知らせします。

1. 地域の道路の建設
2. 公共住宅の建設

これら事業は地域の住民が生活するために不可欠となっているため、市議会は援助の要請をします。

これら事業の必要性を理解いただけることを願って。

敬具

Jean Rousseau MOISE
カルフル市長



地震を通じてポジティブな連鎖を生み出したい

LOVE FOR HAITI のきっかけは、ハイチ地震直後の自分の誕生日会です。この会には、MINMI、若旦那夫婦が来ていて、ハイチを支援したいと意気投合。人の輪が一気に広まりました。

すでに発生していた災害だったので、早く動かないという気持ちがあり、誕生日会の翌日には打ち合わせを実施。第一弾として、バレンタインデーに愛を贈る企画を、震災を体験している神戸の長田神社で行いました。それから約1年間、LOVE FOR HAITI ではお金や物の支援を超えた、何か新しい部分を見せていけたらいいなと思いながら、活動を続けてきました。

一般の人たちの中にも、「何かを支援したい」という気持ちを持っている人は多いはず。でも報道されている情報は一部に過ぎません。災害が起きたときに、子どもでも理解できるような支援の全体図があれば、もっと興味を持ってもらえると思います。

実際に支援をした人たちは、震災から時間が経過し、自分の寄付がどのように活かされているか知りたいものです。「自分の支援が役に立った」と思えるような、ポジティブなイメージが浮かぶコミュニケーションが大切ですね。

これからも、世界の問題にリアリティを持って接していきたいという気持ちがあります。「知らないと言える勇気」を持つことを大切にしながら、地震について知ること、「うれしい、楽しい、ありがとう」という感情を生み出し、ポジティブな連鎖を生み出していきたいです。

●LOVE FOR HAITI <http://loveforhaiti.jp/>

Candle JUNEさん からの メッセージ



Candle JUNE (キャンドル ジュン)

1994年にキャンドル制作を始める。ファッションショー、パーティー、野外フェス、ライブステージなどの空間演出に参加。2001年に広島で「平和の火」を灯してから、「Candle Odyssey」として争いのあった地を巡る旅を続けている。

ジャパン・プラットフォーム(JPF)とは、NGO、経済界、政府が協働して、市民社会と共に日本発の国際人道支援に取り組むための団体です。



JPF は日本国内においても、広報活動をはじめとして国際人道支援を活性化するためのさまざまな活動に取り組んでいます。



広報活動

広くJPFの活動を知っていただくためにグローバルフェスタ2010に参加



研究会の開催

大阪大学「共生人道支援」研究班と連携して、緊急支援に関する最近の国際動向について研究会を開催



企業との連携

ソニー吹奏楽団の定期演奏会にて、寄付金のご支援を頂戴

2000年の発足以降、34の国や地域で
総額131億円による563の支援事業を実施してきました。



2010年11月末現在

ジャパン・プラットフォームの日々の運営を支えてくださっている皆様です。 この場を借りて、深く御礼申し上げます。

賛助会員／一般寄付

ジャパン・プラットフォームの主旨に賛同し、運営をバックアップしてくださる企業・団体の皆様です。
総会での議決権はございませんが、日々の活動に関する提言や情報の提供を通じて運営にご参加いただいております。

● 賛助会員

アサヒビール
アシックス
味の素
伊藤忠商事
エイアンドエフ
MS&AD ホールディングス
オムロン
オリックス

花王
キッコーマン
キャノン

JX ホールディングス
地震防災ネット
鈴与
スターツコーポレーション
スターツ首都圏千曲会
住友商事
双日
ソニー
ソフトバンクテレコム
損害保険ジャパン

大和証券グループ本社
武田薬品工業
武富士
立山科学工業
ダンアンドブラッドストリート TSR
帝人
電子公告調査
東芝

日本エマーゼンシーアシスタンス
日本たばこ産業
日本郵船

バリュープランニング
日立プラントテクノロジー
ひろしま国際センター
富士通
プリチストーン
文化工房

三井物産
三菱金曜会
三菱財団
三菱地所
モノノフ

リンクレア

● 一般寄付

SMK
王子製紙

スターツコーポレーション
住友化学
住友生命保険
全日本空輸
ソニー吹奏楽団（チャリティーコンサート）
損害保険ジャパン

電子公告調査
東京キリンビバレッジサービス
東京電力
東陽
東レ
トヨタ自動車
鳥居薬品

日清紡ホールディングス
日本通運
日本ペイント
日本労働組合総連合会
野村ホールディングス

博報堂 DY ホールディングス
パナソニック
パナソニックグループ労連
パナソニック AVC ネットワークス労働組合
日立製作所
ファイザー

矢崎総業
ヤフーボランティア
UKC ホールディングス

リコー

賛助会費

団体： 1口 50,000円（1口以上）
個人： 1口 5,000円（1口以上）

※詳細は事務局までお問い合わせください。

このほかにも多くの個人の方々からご支援を頂戴致しており、心より御礼申し上げます。皆様のお名前を掲載することができず申し訳ありませんが、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

さまざまなサポート

本業を活かしたサポートにより、ジャパン・プラットフォームの運営を支えていただいております。

イオン
カプランジャパン
KDDI 財団
スターツ出版

セールスフォース・ドットコム
東芝
パブリックリソースセンター
三菱地所

三菱東京 UFJ 銀行
モノノフ
ヤフー
ユニテッドピープル

BRIDGING TO THE RECOVERY
JAPAN PLATFORM

日本語 <http://www.japanplatform.org>

English <http://www.japanplatform.org/E/>



特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）

ジャパン・プラットフォーム

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 2 階 266 区

TEL : 03-5223-8891 FAX : 03-3240-6090

Approved Specified Nonprofit Corporation

JAPAN PLATFORM

Otemachi Bldg. 2F-266, 1-6-1 Otemachi Chiyoda-ku,
Tokyo 100-0004 Japan

TEL : +81-3-5223-8891 FAX : +81-3-3240-6090

編集協力： 有限会社パワーボール

デザイン： 高嶋 純子

印刷： 昭栄印刷株式会社